

07年 東京大学立花隆ゼミ 高山秀子氏、Bradley K Martin氏取材記事（編集）

最初に導入という事でお話をお願いします。

<高山秀子氏（以下高山）>

今から10日ほど前に、25才の脱北者に会ってきました。人権集会に参加するという目的で来日していたのですが、会って話を聞く機会がありました。シンドンヒョクという名前の青年で、政治犯収容所で生まれて育ちました。それも警備の非常に厳しい、一生そこから出ることは困難だといわれるケチョンの14号政治犯収容所の完全統制地域からかろうじて脱出に成功し、2005年に中国に渡り、2年前に韓国にたどりついたというとても稀なケースです。

彼を見ると、食べ物が十分ではなかったために、やはり体格が華奢です。彼の両親は政治犯で、収容所内で模範的な労働者であったために「表彰結婚」という褒美としての結婚を許されたのだそうです。そこで生まれたのが彼なのですが、母親は収容所内での過酷な労働に疲れ果てて、子供とゆったりと暮らすなどということはありませんでした。ですから、母親に抱かれた経験や、人と触れ合うということをおそらく経験してきてはいません。

「収容所にいた頃、金日成の名を知っていましたか？」と尋ねると「金日成も金正日も知らなかった」という驚くべき答えが返ってきました。「主体思想は何か知っていますか」と尋ねると「それは何ですか」という反応でした。よくよく尋ねてみると、その収容所に関しては、彼らは一生そこから出ることは出来ないという前提のもとに入れられているので、一般的な思想教育は受けていなかったようです。そんな教育は必要がないと思われていたんですね。

又、彼の母親と兄は公開処刑されています。彼が14才の頃、母親は絞首刑、そして兄は銃殺刑となり、それも自分の眼前で行われています。逃亡を画策したという罪状だったそうですが、裁判も何もありません。彼はずっと、母親も父親も政治犯だから、自分も悪い人間だと思ってきたそうです。彼が22、23歳の頃に、脱北して捕まり収容所送りになって来た人達と出会うわけですが、彼らから金日成や金正日のこと、そして中国には食べ物がどっさりあることを学ぶわけですが、そして遂に鉄条網を掻い潜って逃げるわけです。

彼にはまだ表情があまりありません。哀しいとか、寂しいとか、人恋しいといった感情を持っては生きてはいけない所だったそうです。母親に抱かれたという記憶も、人と人とのふれあいの暖かさを知らないで育ったそうです。私に出来る事は母親のように彼を抱きしめることだけでした。その時、彼の気持ちがずっと落ち着いたように感じました。彼は、人権運動の中で、自分の経験を話すようになっていきます。私は冗談で「北朝鮮で金王朝崇拜の洗脳がなされていない唯一の人間じゃないか」と言っています。

実は私は、二人の孤児を韓国に送り届ける手伝いをしました。詳しい事は言えませんが、韓国社会特有の「どこの家系から来たか」とか「親の職業は？」といったことにこだわる社会であることと、自分の過去を隠さないと生きにくいこと、トラウマが残っていたのでしょうか、妹の方が鬱状態になりました。今は、某国の大学で元気に学んでいます。今になってやっと

「読書の楽しみ」を覚えたそうです。北朝鮮の子供達は、プロパガンダ以外のものを読むチャンスがありません。

北朝鮮の20代の若者達は、飢餓のためか総じて身長が低く、韓国の同世代と比べると6cm小さいのです。60代以上の人々では北の方が背が高いということを考えると国民の身長が縮んでしまったとしか言い様がありません。これはソウル大学で研究が進められています。私の子供達も「育つ時にちゃんと食べていたら、もっとずっと大きくなれたのに、、、」とこぼします。

“金王朝”の一番の罪だと私が思うのは、核やミサイルよりも「育つ子供を育てなかった」ことだと思っています。これが、将来に禍根を残す彼らの一番の罪だと思っています。現在6カ国協議が行われていますが、今までの亡命者の中で（北で）一番高い地位にいた黄長燁（ファンジャンヨプ）は、「北の問題を核やミサイルだけで片付けてはいけません。人権という大義名文がなければ根本的には何も解決しない」と言っていますが、私もその通りだと思っています。人権に踏み込まない限り、何も解決しないと思います。

ところで、私は来週からDMZ（38度線、軍事境界線）に入ります。DMZには、はっきりした線が引かれているわけではありません。そこは南北それぞれ2kmほどの幅で、50年間人間の入っていない緩衝地帯となっています。

その結果、非常に皮肉なことです。そこに手付かずの自然が残っていて、絶滅の危機に瀕した鳥や動物が生き残っています。しかし、ここ近くに住んでいる人達は、自分達の所だけ取り残されているから、開発をして欲しい訳ですね。また、北では、ケソン（開城）の工業団地がどんどん南に下がってきています。そうすると、おそらく公害が起きてきますよね。これから問題になるのは、このDMZをどうするかという事です。この問題は、北と韓国だけでなく、世界的な問題になってくると思います。

これについて、CNNのTed Turnerは、ポケットマネーで自然公園にしようと言っています。私は、この問題の現状を見るためにCCZ（Civilian Control Zone）という農地のある地域に軍隊の許可を得て入りに行く予定です。その後ケソンに入り、ケソンからDMZがどれほどの距離か自分の目で調べたいと考えています。おそらく、この場所は世界的に大きな問題-世界遺産にするというような事も含めて- になってくると思っています。

<Bradley K. Martin氏>（以下マーティン）

まず初めに、私たちが北の内情を知った経過をお話したいと思います。

北朝鮮は、とても閉鎖的な国家で、日本や米国から内情を知るのは困難です。しかし、あの国は敵である私たち（注；マーティン氏は米国人である）のみならず、国民に対しても閉鎖的です。北朝鮮は、恐らく20世紀における一番極端な全体主義・共産主義・ファシズムの例であり、国民を統制することを熱望し、実際多くの場合成功しています。全体主義国家といえば、ソ連や中華人民共和国、ドイツ・イタリア、時には日本もそう呼ばれるファシズムがあり、北

朝鮮も一応はその流れをくんでいますが、70年代に入って、金正日が徐々に政権を握ってからは、彼のいう「文化」-つまりは洗脳-によって、他に類を見ない統制国家となりました。

以前は指導者以外の人についての本もあったのですが、金正日が政権を握ってからは、ほとんどの本は金日成とその妻、そして金正日自身についての本になり、西洋や古典の本を読めるのは特別な許可を得た人か、金日成総合大学の生徒だけで、日本や西洋の本は普通の人は全く読めなくなりました。

私が初めて1979年に北朝鮮へ入った際に、当然事前に準備はしていたのですが、全く想像しなかった状況に直面しました。国中が-音楽も劇も絵も全てが-指導者への崇拝で満ちていて、本当に誰もがそれらを信じていたんです。ほとんどの絵は金正日の絵で、掲示板には金日成がいつ来て、彼がいかに素晴らしいのかが書いてありました。私はキリスト教の家庭で成長したのですが、私には、(北の)劇や歌は教会や宗教音楽のようで、それは政治体制というよりは宗教的な体験のように思えました。

日本はあまり宗教的な国家でないのに、こういった崇拝を皆さんが理解するのは難しいでしょう。しかし、日本の天皇崇拝は北の国家体制に類似していますし、そのモデルとなったものでもあるのです。

1910年からの朝鮮支配下では、日本は朝鮮人に神道を崇拝させていました。また、キリスト教だった金日成は、若い頃に教会でオルガンを弾いていました。昔の日本の独裁体制と、宗教の要素を見事にブレンドして、金日成は首領様崇拝体制を築いたところがあると思います。

昔は彼らも韓国や労働党について勉強していましたが、金正日はそれを全て変えてしまい、金日成の思想(注;いわゆる主体思想)についての勉強だけが出来るようにしてしまいました。北の学生の勉強は、ほとんどイデオロギー、つまり金日成や金正日が何と言ったかについてになってしまったのです。

私が初めて北を訪れた時-1979年ですが-、50~60才の昔を知っている人は思想に染まりきってはいませんが、40才以下の人は誰もが完璧に金日成への崇拝に染まっているようでした。完璧に、です。

どうやって国民に崇拝させたかという点、金日成たちは自分たちがどれほど素晴らしいかについて、嘘で塗り固めました。例えば、彼らは朝鮮戦争は韓国が侵攻して始まったんだと主張しました。実際には全く逆な訳ですが。また、金正日が政権を継ぐにあたり、本当は、彼は金日成がソ連に亡命している時に生まれたのですが、白頭山(注;北において聖なる山とされている)で生まれたことにしました。このように、彼らは嘘をつき、国民はその嘘を基礎としたシステムを信じています。そのため、彼らは嘘がばれることを恐れ、外からの情報を嫌い、TVやラジオ、CD・コミック・雑誌が入ってくることを嫌うのです。そうすることで、国民を純粹に保っておきたいのです。そのために極度の閉鎖状態を保っているのです。

金日成は70年代までは、国民に繁栄を与えました。北は韓国に比べて豊かでした。しかし、80年代から問題が生じ始め、90年代飢饉が起き何百万と言われる人が死にました。そのため、

今ではシステムを信じることは難しくなっており、特に中国国境の近くや日本などと交流のある港町などに住んでいる人はこの信仰を失い始め、出来れば外へ出たいと思っています。

しかし、中心地である平壤に住む人々は、違った思考・視点を持っています。平壤には、特に忠誠心が強く、優遇された人々だけが住んでおり、特別な待遇を受けているからです。加えて、平壤に住んでいる人達は、迫害をしている側の人達なので、彼らには信仰を保ち、体制を支持する理由があります。

最後に北朝鮮に行った時、平壤に住むガイドといくつか話をしましたが、私が朝鮮戦争について「（韓国ではなく）北が戦争を始めたのだ」「金日成はソビエトの傀儡であった」などと言ったところ、ガイドは非常に怒りだし、「それは事実と違う。もしそんなことをこの国で言ったら、私はあなたの安全を保証できません。」と言うほどでした。

このように、エリートは指導者の周りで団結しています。これはつまり、他の北朝鮮人による抵抗がほとんど不可能であるということです。なぜなら、彼らは秘密警察を潜り込ませているからです。秘密警察は完璧です。もし2、3人集まって金正日政権を転覆しようとする会合を開いたなら、そのうち一人は政府のスパイだと思った方がいいほどです。そのため今まで軍によるクーデター等の行動が成功したことがないのです。本当に難しいのです。

また、政府は統制を維持するのに必死で、経済改革に対して無関心です。経済は崩壊していますが、中国やベトナムのように市場原理を導入すると国民に自由を与えることになるので、それを嫌っているのです。というのも、体制は（国民の中から）リーダーシップを持った人が現れるのを恐れているからです。

しかし食料不足の中を生き残った人は交易することを学び、飢饉の結果、現在本当の市場経済が発達しつつあります。取り締まりは最近また厳しくなりましたが、国民は個人レベルの交易により生きながらえているので、（反発を恐れ）なかなか取り締まれないのが実情です。飢饉はソ連崩壊後に起こったため援助も不足し、北はエネルギー不足に陥っています。労働者は毎朝工場に行きますが、製品を生産することができず、中国の製品の方が良いのでみなそれを買います。社会主義経済の崩壊と市場経済の浸透は北全土に広まってきています。

しかし、民衆が交易を学んだ事には期待が持てますが、それでも全体としては現在の北の状況は大変に悪いです。また、韓国も今は早急な統一を望んでいません。それは、東西ドイツの統一よりはるかに難しい問題なのです。なぜなら（ドイツの場合は）東ドイツでは親戚訪問が出来ましたし、西ドイツのラジオやテレビから世界情勢を知っており、（分裂の）規模も朝鮮半島に比べてはるかに小さかったからです。

以下質疑応答

脱北関連

★多くの脱北者がいる中、脱北しない人がいるのはなぜですか。また、それは出来ないからなのですか。もしそうであるならば、なぜ出来ないのでしょうか。

<高山>

私は実際に国境地帯に何度も行って、国境を渡ろうとしている現場を見た事もあります。脱北の一つの典型的な例は、中国にいる朝鮮族の親戚のところに身を寄せるケースです。朝鮮族というのは、中国延辺自治州に居住する朝鮮民族のことですけれども、中国の朝鮮族に親戚を持つ北の人々は、比較的容易に北と中国を行き来できるので、そのまま中国で親戚の元に身を寄せる事があるんです。

でも、最初から脱北しようと思っていない人が多いです。例えば、初めはいずれ（北へ）戻るつもりだったが、食料に困って教会に行ったところ、そこで勧められて韓国へ行く決心する、といった具合です。

それから、これまで見た中で、印象的だったのはウランバートルで出会った 17 才の青年です。この青年は平壤から歩いてきていました。両親は平壤の中でもすごいエリートでしたが、祖父がカナダで大司教をしているキリスト教の家庭に生まれ、彼はカナダ行きを希望して両親にも言わずに脱北をしました。そういうケースもあります。

また、亡命者の中でも、例えば政府の高官なんかは、国境から来るのではなく、飛行機で別の国へ行く、といったケースもあります。このように色んなケースがあるので、一概にどのように脱北するという事を言うことは出来ません。

他にも、私が知っている日本人妻のケースもあります。北では、普通の人は電話をもっていないので、電話をするためには平壤や大都市まで行かなくちゃいけません。そこで、国境地帯の人達は、（平壤まで行くのは遠いので）電話をかけるために川を超える人もいますね。私の知人も、電話をかけるために川をこえて中国へ渡り、そこで「日本の国籍が残っていれば帰って来れるらしいよ。」と聞いて、それで脱北をすることにしたんです。この様なケースもあります。一人一人全く違うんですね。

また、別のケースでは、あるエリートの青年がいました。彼は、反体制の活動をしていたのですが、中国で捕まって北に返されたら殺されるので韓国へ行きました。彼は、現在韓国で人権運動をしています。そして、もし北が崩壊したなら北に戻るといっています。

いくつか例を挙げましたが、一言に脱北といっても実際には非常に多くのケースがあるんです。

注；朝鮮族…中国に居住する朝鮮民族のことで、少数民族の一つ。中国朝鮮族とも。主に朝鮮と隣接する地域に住んでいる。

持ち込み禁止リスト

少し話は変わりますが、ケソンに入る時に注意される持ち込み禁止のリストがあるんですね。そこに持ち運び禁止として挙げられているものとして、偽造紙幣、医療目的外の毒薬・麻薬・その他の有毒性化学物質、武器、銃弾、爆発物、軍用品、凶器、放射性物質、引火物質、無線機とその付属品、が挙げられています。これを読むと、北朝鮮が自分の国の常識でしか考えていないことがわかります。こんなもの持って入る人は普通いない訳ですから。

実は、今日ここに来る前に偽札鑑定機の松村さんの所で北の最新の偽札を見せて頂いてきました。非常に精巧でした。いっそのこと、その偽札を（北朝鮮へ）持って入ろうかと思ったんですけども(笑)

北朝鮮の自由のなさの例なのですが、ただ一日小さなケソンの街に行くだけでも、DMZと北朝鮮内を車両で移動する際の写真撮影は禁止です。他にもケソン市内を背景にした写真や、住民、軍人、ガイド、ボランティアの撮影は禁止で、違反した場合は10ドルから100ドルの罰金となっています。そのため北に行っても実際に見て取材するのは難しくなっています。しかし、それでも例えば煙突からの煙や墓の数などから北の現状を推測することはできます。

★国境の川は容易に渡ることが出来ますか？

<高山>

日本海側から黄海までの（中国と北の）国境は非常に長い上、夏場は川幅が数メートルになるので渡ろうと思えばすぐ渡れます。ただ兵士は鉄砲を持って警戒しているので、兵士が近づいて来たら逃げる、といった風です。（川の幅は）場所によっては非常に短いです。向こうで洗濯したり、こっちで子供が遊んでいたりと、といった具合です。ただ、最近は警備が非常に厳しくなっています。

冬場は氷が厚く、私も見たことがあるのですが、北の人がヨロヨロと氷を渡って中国に来るのですが、中国側に着くと、気が抜けて大抵倒れてしまいます。死ぬ場合もありますが。そして、朝鮮族の人達は渡ってきた人達を助けてあげます。

今までで一番悲惨だと思ったのは2001年のニューズウィークの取材でのことです。鉄鉱石で有名なムサンという町から、零下20度近い中、ぼろぼろの人民軍の服を着たやせた青年が川を渡ってきて倒れました。警備兵がいるので、（朝鮮族の）村人たちは同胞を守るために人垣を作って（倒れ込んだ青年を）隠し、村に連れて行きました。村人にしてみれば、同じ朝鮮族で、自分達の同胞な訳です。（国境付近には）親戚が多いです。その青年は、背中に傷があって柱の傍で喋ることもできないほど弱っていました。彼は泊まっている家の親戚の者で、その家を目指して渡って来たんです。ものすごく残酷だと思ったのは、青年の力も回復しないうちに、その家のおじいさんが「お前が出てくる2週間前にお前の父親が一つ向こうの村に渡って来たが、渡ったところで力尽きた。凍ってしまって道端に埋葬してあるがどうしたらいいか」と聞いたんです。（死んだ）父親は胸に遺書を持っていて、それを読んだ時、私はどうしたらいいのかわかりませんでした。その青年は、父親もいると思ってやっと渡ってきたのに、

着いた途端に聞いたのは父の死の報せだったのです。あまりのことに、私は言葉を失いました。惨すぎる悲劇でした。

教育関係

★歴史教育について。北朝鮮にも、高麗など歴史上様々な国家が存在していましたが、そのような歴史や抗日戦線以前の歴史は教育されていますか？

<マーティン>

中国の東北部の一部は昔高句麗だったため、中国と北朝鮮が国境線でもめています。そのため、自国の利益のために教えることもあります。しかし、学校で高句麗や李朝の事も教えるのは、あくまで朝鮮がいかに素晴らしいかを示すためのもので、すぐに抗日戦線の話に入ります。（実際には）金日成は抗日戦争の英雄の一人- one of many- に過ぎなかったのですが、全ての事について最高の指導者であると教えられます。つまり正しいことを教えるのではなく、国家体制の利益になることだけが教えられるのです。

★義務教育の状況はどうなっていますか？

<高山>

義務教育は 90 年代以前までは比較的きちんとやっていたようです。しかし、90 年代に入って食べ物が不足しだすと、脱北者の話では、例えば箸やウサギの皮を持って来い、といった学校からの要求が多くなって、学校に行っている暇がなくなってしまうと聞いています。自由北韓放送のキム・ソンミンは、以前人民軍の大尉であった人で、北の教科書なども持っているのですが、平壤以外ではほとんど勉強できていない子供が増え、読み書きができない子供も多いと危惧していました。例えば、私の知っている子供の中にも中学から食べられなくなって、学校に行けなくなり、読み書きもある程度までしかできない子もいました。大都市の子供達はある程度恵まれているんですが。

★義務教育が受けられない子供達も、金日成に関する神話等の話は知っているのですか？

<高山>

それだけは教えるみたいです。何を勉強したかというと、金正日がどうだとか、金日成がどうだとか、それだけは知っているみたいです。

私はあの国で一番将来困るのは、エリートは- 例えば核を作ったりミサイルを作ったりする科学者- はいいいけれど、そうじゃない恵まれない人達（成分の下の人達）は、教育的にも恵まれない状況にあるのではないかと思います。

注；成分…北朝鮮では 51 段階に階級が分かれており、階級の事を成分と呼ぶ。

★学校教育では、具体的にはどのような科目を教えて、どのような教育体系になっているのですか？

<高山>

教科書について、少し調べた事があります。例えば算数ですが、教え方は「山の向こうから、アメリカ帝国主義傀儡の、3人の南の野郎どもが来た。こっちの河から、我が栄えある北朝鮮の軍人が5人やってきた。5から3を引いたらいくつか。」とか、このようなものです。小学校や中学校では、このように笑ってしまうような問題のなげ方が非常に多いです。なぜか「アメリカの馬鹿が作った戦車が5台あって」とか、どうでもいい注釈がついています。

それから、教科書も、90年代の英語の教科書なんかは、トウモロコシの皮で紙が作ってありますから、酷いものです。文字はプリントしてあるのではなく、押してあるものですし、ページの上には必ず「偉大なる我が首領、金日成万才」などと書いてあります。英語の内容もそんなんです。だから、おそらく徹底的にそういう教育がされているのだと思います。

★北朝鮮も、それなりに様々な技術をもって、現に核開発までしており、相当の高等教育・エリート教育を一部のエリートには受けさせています。そのような現代社会の高度な技術というものを、北朝鮮はどのようなルートで手に入れているのですか？

<マーティン>

北朝鮮は、かつては海外へ-特に共産主義国家に-エリートを留学生として送っていたが、やめてしまいました。海外からの“おかしな”知識によって、国内の人間が影響を受ける事を恐れたのです。そして、その後彼らはパージにありました。特にロシアのミリタリーアカデミーに行っていた人達などは、非常に強いパージにあって、力を出せない状況になっていました。

現在北朝鮮が力をいれているのは、コンピューターとビジネスです。ただ、北朝鮮は“ビジネス”という言葉に非常に嫌うので、アメリカのコリアソサエティーの人達が-ビジネスという北はのって来ないがコンピューターという北はのって来るので-コンピューターという名目で、交換留学という形で北から留学生を呼んでいます。近年、北が必要としているのは、経済とビジネスの知識であって、オーストラリアに人を送ったりして一生懸命ビジネスの勉強をさせるようにしています。

現在韓国がこんなにも成功しているのは、優秀な経済学者がいたからですが、北朝鮮にも、優秀な経済学者が必要なのです。

<高山>

私が知っているのは、北の「核の父親」と言われる人は、日本に留学していた人だということです。その人は、京都大学に来ていて、その後韓国に帰って、それから 1960 年代頃になって、北朝鮮が盛んに日本や韓国から科学者達を連れて行った時期があるんですが、その時に（北へ）連れていかれた人の一人です。

北朝鮮は、自分達の科学の力が非常に遅れているというのを分かっています。この 10 年ほどは、まともな数の学生を留学させる資金がなくて、留学させられないのが実態です。例えば経済学なんかでも、オーストラリアやイギリスにもやっていますが、1年のタイムラインでやることが多くて、昔のように何年も留学して学問を極めるっていうことは出来なくなっているようです。

それで今、中国吉林省の延吉にあります延辺科学技術大学というところが、今度、PUST(平壤科学技術大学)を作ろうとしていまして、建物も全部出来ているんですが、ここが、今年の4月からオープンする予定となっていました。ここでは金日成総合大学などの大学院の学生をまず受け入れるようです。授業は全て英語で、世界中からボランティアのような大学教授を集めてやるようです。

私は、これが成功するかどうかというのは、北朝鮮の将来に非常に大きな影響があるのではないかと思います。というのは、自分達が外の世界に行けないのであれば、外から連れて来るしかない訳ですから。キャンパス自体はもの凄く大きいものです。私が見た設計図では、敷地内に、発電所も入っていましたし相当立派なものです。これが、金正日の許可のもとに開かれる予定のようです。まだ分かりませんが。

注；延吉…中国吉林省の延辺朝鮮族自治区の市。朝鮮族が過半数を占める。

★留学生は、北でいうエリートが行くと思うのですが、どのような人が行けるのですか？

<マーティン>

もちろん留学に行けるのはエリート層の人達です。エリート層の親達は、こぞって子供を留学させたがると聞いています。北の状況が悪化したような場合に備えたいという訳です。これはかつての中国に似ていますね。

場所については、オーストラリアだとかヨーロッパに行く人達はいますが、今のところアメリカや日本に留学してる人という人を聞いたことはありません。

留学のためには、厳しいチェックをクリアしなければなりません。一番のチェックポイントは、忠誠心です。海外で色んな影響をうけても、忠誠心が揺るがないということが重要なのです。

★忠誠心という話が出ましたが、実際北の人々は精神的に抑圧されているように思われます。

例えば、チュチェ思想や儒教は人間関係を縛り付けるものであるし、スパイ等にも囲まれています。そのように精神的自由が全くない中で、精神的なはげ口はどこにあるのですか？例えば、ドイツではユダヤ人差別がそれに当たるものであったようですが。

<マーティン>

北に関しては、アメリカ人や日本人を憎むことがはげ口になっているかもしれません。一つ言えるのは、他の国- ドイツやソ連- とは違って、北の人々は、自分達の首領様やリーダーについての冗談は言いません。儒教的な精神がそうさせているとも言えるかもしれませんが、彼らは冗談を聞かれる事を恐れますし、それ以上に、彼等はそもそも民主主義とかデモクラシーとは何かということは全然理解していない訳ですから、思いつかないのではないかと思います。

<高山>

私が彼らを見ていて思うのは、生活があまりに厳しく苦しいために、生き延びるのに必死であって、はげ口云々という所まで行かないのではないのかと思います。もちろん、例えば「生活がこんなに苦しいんだから、首領様には誰かと代わって頂かなくちゃいけない」と言っている人がいるということを知った事はありませんが、（普段）他人にはそのような事は言いません。

★精神障害者や身体障害者、ゲイといった、社会的なマイノリティーに対する差別はありますか？

<マーティン>

“普通”じゃない人は、平壤に住むことは出来ません。金正日は、“普通”で、美しい人々が首都で暮らしているのを見たがりますし、そのような人達以外を見ることを嫌うのです。そういう意味での差別は当然あると思います。

社会・産業関連

★人民の生活を向上させるためには、コンピューターなどの教育も力を入れるべきだと思うのですが、あえてそういう教育をしていない理由はありますか？
また、国内の農村部で農業を営んでいると思いますが、その実情はどうなっていますか？

<マーティン>

国民にコンピューターを学ばせたいというのはあるけれど、インターネットは使って欲しくないんです。それが北の限度なんです。インターネットを使ったら、政府が“間違っている”と教えているものについての情報が入ってきますから。しかし、インターネットを除けば、優れたソフトウェアを作る事も出来ますし、コンピューターについて教えない訳ではありません。

<高山>

私は国境のある街で、数年前に日本人がやっているソフトウェアの会社に行ったことがあります。働いている人は全員北の人で、みんな英語や日本語が出来て、5人なら5人に1人は保衛部なんです。北から出る人には必ず見張りがつきますから。そして、みなさん6ヶ月の契約で来ていたんですが、何を作っているかといいますと、日本の子供に教える「あいうえお」のソフトを作っていました。「あ」って言うと、文字が出て来てなぞるようになっていたんですね。そのようなソフトを、北の技術者が作っていました。日本も韓国も中国も、彼らのソフトウェアの技術が優秀だと言うことは分かっているんですね。

<マーティン>

農業は、国の経済の中心にある問題です。どういう風に進められているのかというと、金日成や金正日の鶴の一声で、全て変わってしまいます。首領様は農業に関しては何でも知っていて、素晴らしいアドバイスを与えて下さる、という訳です。このシステムが、決定的な問題なのです。例えば、ある年「全部やめてジャガイモを植えろ」と言ったのですが、そうするとあちこち本当にイモだらけになった訳です。農業の専門家でもなんでもないので命令しているんです。

金日成が、チョンリマ運動といって、全国の木を切って段々畑にしてトウモロコシを作った時もそうでした。結局何の知識も無い人の思いつきですから、雨が降ったら全部土砂が崩れて、河の底に土砂がつもる、そうすると川底が上がってまた氾濫する、と、こんな具合です。こういう悪循環がずっと続いている、それが北の農業の現状なんですね。去年も、氾濫が起きたのをご存知だと思います。

★90年代は飢饉のひどい時だったようなのですが、ここ数年はどう変わりましたか？

<マーティン>

1998年に最悪の時期は終わり、それ以後は経済は徐々に持ち直しています。しかし、基本的にはあまり変わっていません。氾濫などは今年も続いています。昔との違いは、現在生き残っている人達は、最悪の時期を乗り越えた、生き残るすべを知っている人達だということです。中国へ行って食糧を得るなど、生き残る技／知識を持っている強い人間なのです。彼らは国家に完全に依存するということはありません。（※これは、北の人達もよく言う話です。by高山）そうでない人達は死んでしまいました。何百万人という餓死者が出たという数字もあります。

韓国も、農業国ではあるけれど、足りないものについては輸出入に頼っている訳です。北もやはり、輸出入で補うすべを身につけないとやっていけないと思います。

★環境問題が北の国内でも起こっていると思うのですが、それに対して金正日や政府はどう考え、実際にはどのような対策をしていますか？

<マーティン>

平壤は、実際空気が澄んでいます。なぜなら、産業がほとんどないし、他国と比べて車も走っていませんから。そこで、北の人は空気が綺麗な事を自慢するんだけど（「金正日様は空気が澄んでいるのが好きなんだ」）、それは当然のことなんです。でも、例えばヤンビョンなんかの核施設の放射性物質の垂れ流しは、重大な問題を引き起こしているし、鉱山が多いからそこでも深刻な環境問題があると聞いています。

夜の平壤の衛星写真を見たことはありますか？グーグルアースで見るといいですよ。平壤は、南の韓国と比べて真っ黒です。

<高山さん>

北は貧しい貧しいとよく言いますが、実際には鉱物資源の宝庫なんです。北朝鮮の国歌を知っていますか？「朝は輝け」という国家なんですけど、これは「朝は輝け、我が山河。金と銀も豊富で…」って続くのですが、（北には金、銀、マグネサイト、タングステン、レアメタル、等々ものすごい量があるんです。そして今、中国も韓国もそれを虎視眈々と狙っているんです。それで、いつも私が言っているのは、北の状況というのは、「宝の山の上の餓死」だと思います。北の政権だって、その資源を分かっている訳ですから、もしもそれをちゃんと利用出来ていたら、あそこまで餓死者は出なかったはずだと考えています。

これからどんどん他の国が入っていきますよね。そうすると、北はなかなか出さなくなる可能性があると思います。因みに、私が付けている指輪も、北朝鮮産の金です。

★偽造紙幣や麻薬、偽タバコの製造や取引は国家ぐるみで行われているのですか？

<高山>

これらの生産は個人では行えません。ただ、偽タバコは最近では細々としかやっていません。ラジンに4つほどタバコ工場があり、そのうちの1つは台湾と契約して輸出していたのですが、6ヶ国協議の影響で締め付けが厳しくなり、その工場では現在作っていません。

偽札については、1996年にニューズウィークで取材し、表に出ていない脱北者の方にも取材しましたが、国策で作っています。外貨がなければ作ってしまおうという発想ですよ。

偽札は昔スーパーKが出回っていましたが、今はスーパーZ 1+まで進んでいます。これはアメリカの（本物の）ドル札より作りがよく、ほとんどの識別機は通してしまいます。最近はこの締め付けが厳しくなったので少し抑えているようです。

麻薬は日本と非常に密接な関係にあり、日本のヤクザと多く取引しています。通常は海上で受け渡しをします。「瀬取り」といって、北の船が落としていって、日本の船がそれを拾う訳ですが、GPSがあまりよくなく、鹿児島や熊本などに漂着することもあります。最近はこの

も警備が厳しく、他の国に売る別ルートを考えているようです。だから、日本と無関係な訳ではないんですね。非常に奇妙な所で近いと思います。冗談のような話ですが、島根県からウンスンへ覚せい剤を受け取りに行った船が、北朝鮮でガソリンを補給してもらったところ、そのせいで船が島根県沖で動かなくなり、捕まったこともあります。

社会情勢・国際情勢関連

★第二次世界大戦のドイツですらヒトラー暗殺計画はありました。金正日の暗殺の可能性についてどう考えていますか？

また、東ドイツの末期は秘密警察のネットワークが非常に密に張られていたにも関わらず崩壊が起きました。北の突然の崩壊があるとしたら、それはどのような場合ですか？

<マーティン>

当時のドイツとの違いは、ドイツが戦争中だったのに対し、北朝鮮は現在戦時下ではないのでスパイ活動に専念できるということです。スパイ活動を最優先事項に持って来ることが出来るのです。しかし、だからといって突然の崩壊が有り得ないと言っているわけではありません。反体制の活動としては、関西大学の李英和が留学生として 1990 年初めに北に行っていた頃、秘密集会に招かれた事があると言っています。また軍部の一部がクーデターを起こしたという噂も聞くこともあり、ありえないことではないと思います。

しかし、金正日の暗殺は困難でしょう。なぜなら、彼自身が非常に暗殺を恐れているからで、いかなる時もそのような事態を回避するために気をつけているからです。

彼は飛行機にも乗らず常に鉄道を使い、車に乗る時は、車を 10 台並べて全ての車に影武者を乗せ、どこに本人がいるか分からなくしています。他にも彼は多く家を持ち住む場所を度々変えます。外国からプロフェッショナルのスナイパーなどが派遣されたとしても暗殺は困難でしょう。

しかし、だからといって崩壊が起き得ないという訳ではありません。最も有り得そうなシナリオは、彼の暗殺ではなく、病死を契機とする崩壊でしょう。健康状態はあまり良くなく、心臓の血管の手術を受けたと言われており、認知症の初期症状が出ているとも言われています。彼は 65 才、実際は 66 才であり、病死することはありえるでしょう。健康でないようにも見えます。

突然の崩壊のシナリオとしては、金正日の死が引き起こす可能性が最も有り得るでしょう。金正日の息子たちは誰も跡を継ぐ訓練を受けていません。一番年上の息子金正男（キムジョンナム）は海外にいることを好み、後継者にならないでしょう。金正哲（キムジョンチョル）と金正雲（キムジョンウン）は若すぎて今すぐに後継者になれそうに思えません。だからといって、軍が政権を掌握したとしてもうまくコントロールできるとも思いません。

中国は北朝鮮で社会の秩序が完全に崩壊することを恐れています。そのためには軍が民衆を殺すことを防がないといけません。1989 年頃のクリスマスイヴにルーマニアで軍が国民を撃

った事がありました。

もし軍隊が反体制活動をするとしたら、金正日が強硬な態度をとった場合でしょう。例えば市場を閉鎖させたとしたら、市場は彼らが生活していくために必要であり、市場で働いている人の多くは保衛部の人間の妻なので、大きな反発があるでしょう。北朝鮮の崩壊を7段階に分け、今4段階目にあるとするアメリカの研究者による分析があります。次の段階では地方部で統制が取れなくなり、制限を無視し国民は食べ物を探して歩き回ります。しかし北朝鮮政府もそのような状況は危険な転換点であると認識しており、実際金正日は取締りを強めすぎず、緩めることができます。

★日本、北朝鮮、アメリカの関係についてなのですが、しばらく前から、アメリカは日本抜きに北朝鮮との関係を改善する方向に動いているという話がありますが、これについてどう思いますか？

また、そもそもアメリカにとって、北朝鮮問題というのは、どれくらい重視されていますか？つまり、北の核というのは、イランやイラクの核と比べてはるかに軽く見られています。北としては、アメリカが慌てると思って核の開発をしているのに、実はアメリカは北の問題を重視していなかったとなれば、北はフラストレーションをためて暴発するという危険があるかもしれないと思うのですが。

そして、今アメリカ大統領の予備選挙が行われていますが、その結果— 民主党になるか共和党になるか、オバマになるかクリントンになるか— はアメリカの政策に影響を与える可能性はあると思いますか？

<マーティン>

最後の質問から答えます。大統領選挙の結果では、北に対する政策は基本的には変わらないと思います。なぜなら、ブッシュ（共和党）の北に対する政策は、現在民主党に近づいています。民主党は以前から北と話し合いを持とうとしていますし、実際にそのようになっていますから、どちらも変わらないと思います。

次に、アメリカが日本抜きに北との話し合いを進める可能性についてですが、拉致問題の話だとすれば、安倍政権はこれを政権基盤として重視していましたが、福田さんも同じように強く考えているかどうかは疑問です。

金正日は若い頃、本当に優れた show man でした。彼は映画や音楽を愛したし、演出を得意とする本物の show man でした。だから、もし彼が本当にやる気にさえなれば、拉致について日本国民を納得させる話を作る事は出来たはずですが、だけど、彼は年をとったのか、出来ていません。

そしてアメリカとしては、何人かの拉致問題よりも核問題を重視しているということは、表面上はあまり出て来ないけれど、実際にはあると思います。

2つ目の質問についてですが。彼が「悪の枢軸」として北を指名したのは、政治的な思惑というか、そんな感じだったと思います。つまり、イスラム教国ばかりを指名したらまずいと思

って、バランスをとるために非イスラム教国も含めただけのことだと思えます。

北は 1950 年に朝鮮戦争という大失敗を経験しています。戦争を始めたけれども、自分達のテリトリーは全く増えていないし、失敗だったんです。それで、アメリカでも一部の人間は、金正日と金日成は間違いだと思っている人がいます。だけど実際には、二人とも間違いなんかじゃ全くありません。父親は、朝鮮戦争以外におかしな事はやっていないし、息子も間違い的な事はやっていない。間違いなんかじゃなくて、むしろ体制維持という面では頭の良い人間だと思います。

アメリカが北の核に関して憂慮する点があるとすれば、北がイスラム国に核を売ってしまうのではないかという、いわゆる核の拡散の問題はあると思います。それから、あまりに北を追いつめすぎると、北の気が変わって、パールハーバーのように、ドカンとやってしまうのではないかという危惧はあると思います。この2つだけが、北の核に関して深刻な問題となりえる事です。

もちろん、北は日本のどこかにドカンとやることも出来ます。だけど、彼は狂ってはいません。もし何かやった時には、アメリカは黙っていないし、米国の国力をもってすればひとたまりもないことも分かっている。そんな事は割に合わない。彼が本当に間違いにならない限り、そんな事はしません。

アメリカ側としてもそれを分かっているから、1、2発の核を持っている程度では、何もしないのではないかと私は思います。そこがアメリカと北の妥協点だという事です。

<高山>

最後にですが。私の知り合いで金正日と話した人がいます、その人が教えてくれたんですが、金正日は「私の通常兵器は全く役に立たない。だから私は核を諦める事は出来ない。もし私が核を諦めたら、アメリカは私を殺すだろう。」と友人に言ったそうです。だから余程の条件をアメリカが示さなければ、なかなか諦められないかもしれません。